

平成25年度 公共事業事後評価調査書

1. 事業説明シート(1)

(区分) (国補)・県単

事業名		治水事業 [統一級河川整備事業 (国補)]		事業箇所	市川三郷町黒沢～富士川町駅前通2丁目		地区名	新 川		事業主体	山 梨 県			
(1) 事業着手年度		S61年度		(2) 事業期間		S61年度～H20年度		(3) 完了後経過年数		5年		(4) 総事業費	1,790百万円	
(5) 事業着手時点の課題・背景						(8) 事業位置図等								
<p>・新川は、その源を山梨県西八代郡市川三郷町の大富山に発し、同町黒沢地内で富士川に合流する流域面積9.2km²、流路延長5.0kmの一級河川である。流域の下流に位置するJR身延線黒沢口駅及びび県道市川三郷富士川線の両側には人家が連担している。</p> <p>・現況河道は、狭小であり、計画流量120m³/sに対し、現状では80m³/s程度(67%)の能力しかなく、昭和57年7月31日から同年8月3日にかけての台風10号により各所で氾濫が生じ、JR身延線黒沢口駅を含め床上浸水が85戸、床下浸水が45戸、田畑の冠水が19haとなり、甚大な被害が生じた。</p> <p>・このため、流下能力の拡大に重点を置いた河道拡幅を行い治水安全度の向上、氾濫防止する事を目的とする。</p> <p>(被害実績) 昭和57年8月(台風10号)、昭和62年9月(台風13号)</p>														
(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果														
【事前評価未実施】														
<input type="checkbox"/> 主要目標 ・洪水被害の防止														
<input type="checkbox"/> 副次目標 ・なし														
<input type="checkbox"/> 副次効果 ・なし														
(7) 整備内容(目標達成の方法)														
・流下能力の向上 改修延長：L=1,200m 築堤：L=740m 護岸：L=2,400m 床止工：N=1基 橋梁工：N=3基 流下能力 80m ³ /s→120m ³ /s(時間雨量57.7mm/h) 治水安全度 1/5→1/30														

2. 評価シート（1）

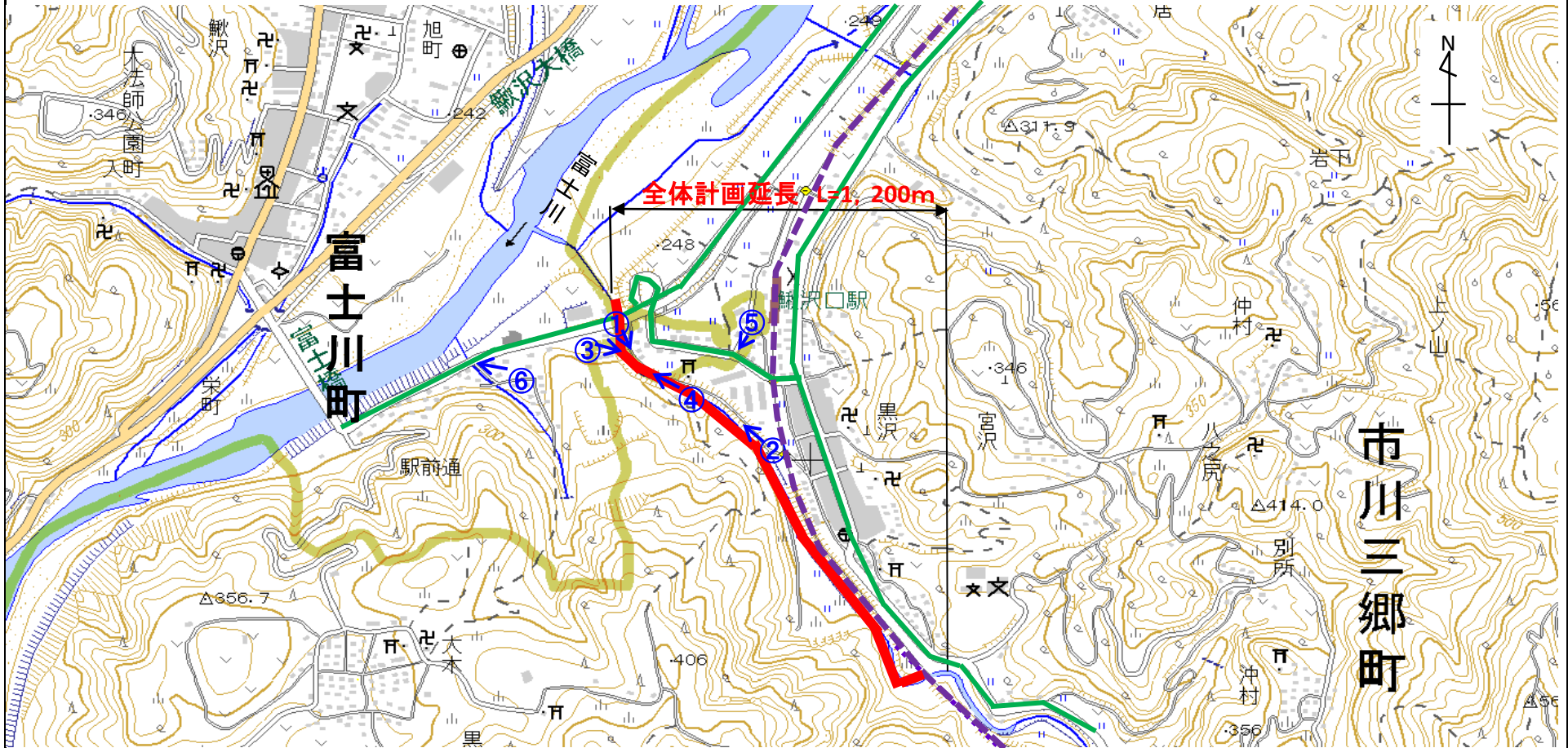
(1)事業貢献度 〈(良)・不良〉	(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化 〈(有)・無〉																									
<p>(理由) 当初計画どおり、確率規模1/30での河道改修が実施され、計画流量を安全に流下させることが可能となり、主要目標である洪水被害の防止に貢献した。</p> <p>なお、平成23年9月台風15号による集中豪雨（落居台観測所：9月21日 時間雨量34mm 日雨量165mm(1/10程度)による降雨では、沿川に溢水等による浸水被害は発生せず、安全性の向上に大きく貢献している。</p> <p>①主要目標 洪水被害の防止</p> <table border="1" data-bbox="197 470 1104 622"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>危険度</td> <td>11点→設定せず</td> <td>7点</td> </tr> <tr> <td>想定氾濫区域1haあたり被害軽減額</td> <td>6百万円→設定せず</td> <td>14百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>□評価時点の数値に対する評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険度については、11点から7点に減少している。 1haあたり被害軽減額は、着手時の6百万円を上回る14百万円となっている。 	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	危険度	11点→設定せず	7点	想定氾濫区域1haあたり被害軽減額	6百万円→設定せず	14百万円	<table border="1" data-bbox="1167 193 2040 422"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,887百万円</td> <td>1,790百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>S61~H20</td> <td>S61~H20</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>未算出</td> </tr> </tbody> </table> <p>(要因変化の分析)</p> <ul style="list-style-type: none"> 総事業費： 可能な箇所においては、既設護岸を利用していく計画としたため事業費を縮減することができた。 	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,887百万円	1,790百万円	工 期	S61~H20	S61~H20	経済効率性	費用	-	便益	-	B/C	未算出
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																								
危険度	11点→設定せず	7点																								
想定氾濫区域1haあたり被害軽減額	6百万円→設定せず	14百万円																								
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																								
総事業費	1,887百万円	1,790百万円																								
工 期	S61~H20	S61~H20																								
経済効率性	費用	-																								
	便益	-																								
	B/C	未算出																								
<p>②副次目標</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>③副次効果</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>④その他の事業効果の発現状況</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 	<p>(3)事業実施による環境の変化 〈(有)・無〉</p> <p>①自然環境への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> 護岸には緑化ブロックを用い、河床部は変化を持たせるよう配慮し、自然に近い状態での整備を行った。 <p>②生活・居住環境等への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 																									
	<p>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 〈(有)・無〉</p> <p>①社会経済状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 環境に対する意識の高まりを背景に、魚類等に配慮するため、自然に近い状態での整備を行い、生態系に配慮した水辺空間を確保した。 <p>②関連計画・関連事業の状況の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし <p>③事業環境等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> なし 																									

評価シート（2）

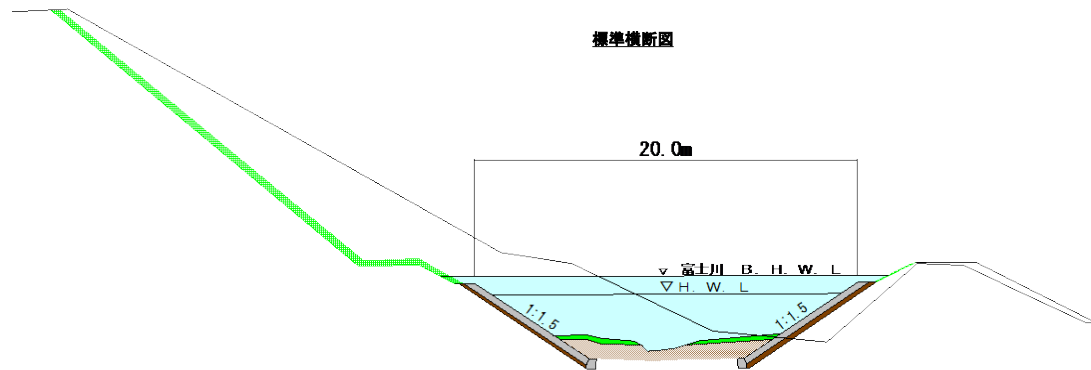
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり事業が完了したため洪水被害の防止という主要目標が達成され、自然環境への影響について、今後大きな変化が生じる可能性は低いと思われることから、今後の事後評価の必要性はないと考えている。 <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時期： 年度 ・方法： 	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 〈 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 〉</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河川事業の場合、沿川や流域の開発状況等を勘案して浸水被害等を防止するように効果的な区間の設定を行うため、事業区間や事業期間が長くなる傾向がある。 <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期的な事業計画を持ちつつ、概ね10年程度で完了できる適切な工区を設定して、その工区毎に事業評価を受けることにより、予算管理や時間管理を徹底していきたい。
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(具体的改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし 	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし <p>(9) その他特筆すべき事項 〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なし

3. 添付資料シート (1)

○整備計画図



標準横断面



凡例

- : 主要地方道
- ⋯ : JR身延線
- : 新川
- : 町境

添付資料シート（2）

○事業着手前、完了後の工事写真

事業着手前

完成後

①新川橋下から左岸撮影



②法手平橋から下流を撮影



○完了写真

③新川橋横から右岸撮影



④上流から山王橋撮影



○昭和57年8月 台風10号 浸水状況写真

⑤市川三郷町黒沢地内



⑥富士川橋周辺

